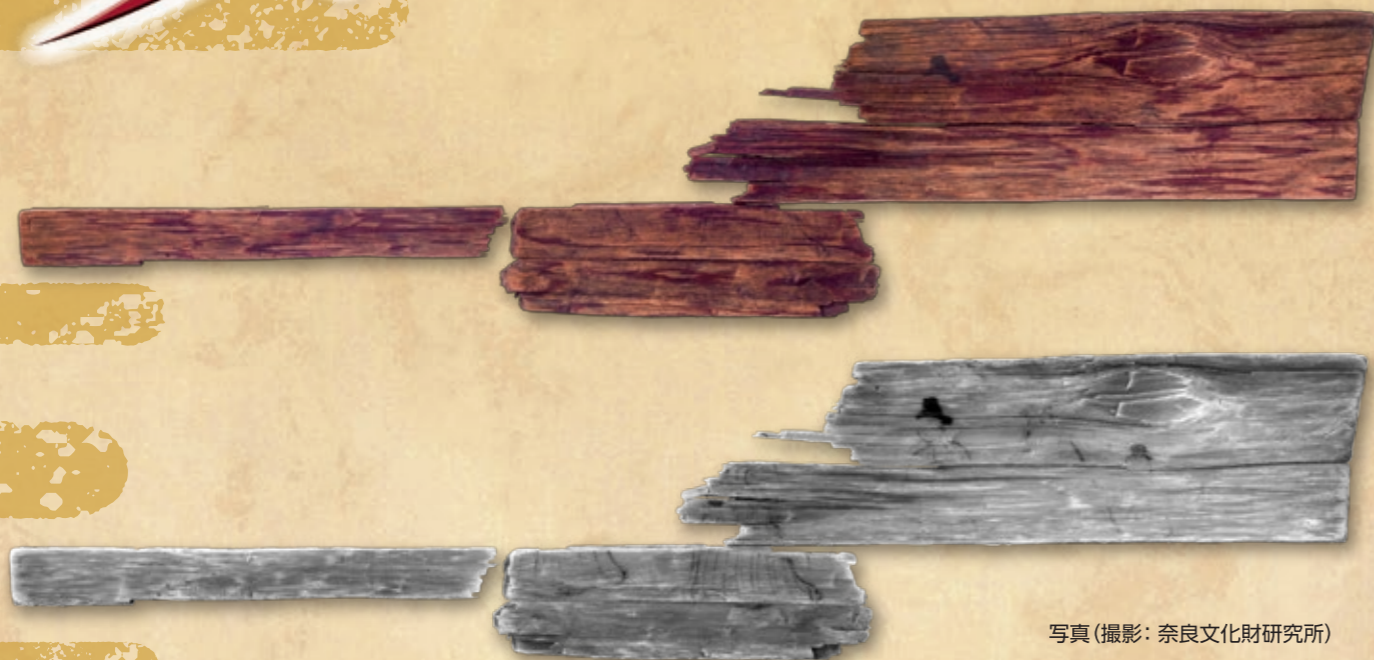
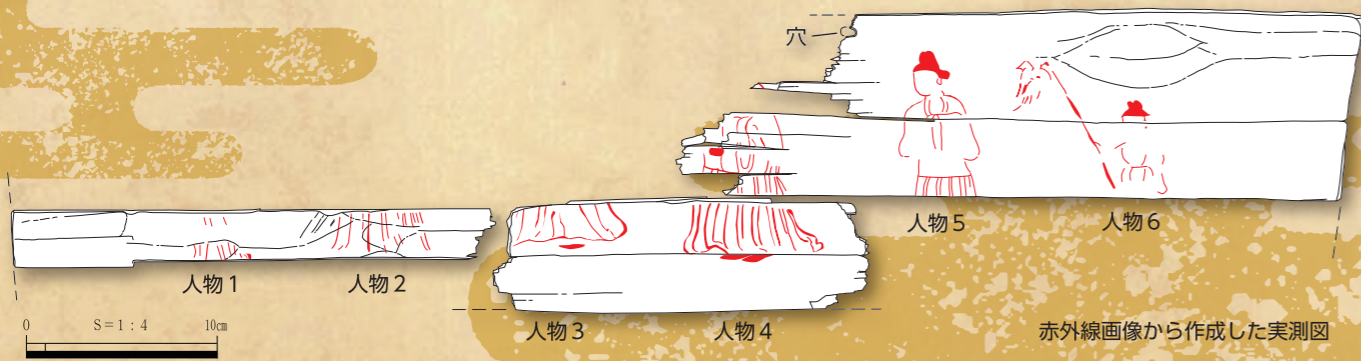


あおやよこぎ
鳥取県青谷横木遺跡

「女子群像」板絵



写真(撮影: 奈良文化財研究所)



赤外線画像から作成した実測図

「女子群像」板絵の発見

平成28年9月6日、出土品の整理作業中、1片の板に、かすかに人物らしき像が……。まさにそれが、「飛鳥美人」と称される国宝高松塚古墳壁画に次ぐ国内2例目となる「女子群像」発見の瞬間。遺跡から出土して、1年後の大発見でした。

板絵が出土した青谷横木遺跡は、古代山陰道と考えられる大規模な道路遺構や土地区画である条里地割が発見され、木簡や木製祭祀具などが多量に出土しています。また、国内で初めて柳の街路樹が発見されるなど、わが国の飛鳥時代から平安時代を代表する遺跡といえます。

板絵には侍女を従えた高貴な女性たちが描かれています。その特徴や描写は国内だけではなく、中国や朝鮮半島との関連性がうかがわれ、広く古代東アジアにおける文化交流を語るうえで欠かすことのできない資料です。

板絵はいつ、誰が何のために描いたのか?なぜ、この青谷の地に眠っていたのか?板絵の出土が意味するものとは?ここではその謎に迫るべく、板絵の内容を詳しく見ていきたいと思います。



古代山陰道復元イラスト — 街路樹のある道路景観 —



古代山陰道とみられる大規模な道路遺構(北西から撮影)

■青谷横木遺跡とは?

鳥取県鳥取市青谷町、青谷平野を流れる日置川の下流域にある遺跡です。近くには国史跡青谷上寺地遺跡があり、古代では因幡国気多郡日置郷にあたります。発掘調査では飛鳥時代から平安時代にかけての遺構や遺物が数多く見つかっています。

古代山陰道と街路樹 発掘調査では国内で初めて古代の街路樹が発見されました。これにより、10世紀後半の古代山陰道には街路樹として柳が植えられていたことが判明しました。

また、古代山陰道の盛土には枝葉を敷き、排水などの機能を高める敷葉・敷粗朶と呼ばれる高度な土木技術が用いられています。それは朝鮮半島から伝わり、池の堤や軟弱地盤での道路建設で用いられた最先端の土木技術でした。

豊富な出土品 木製祭祀具が2万点を超え、大規模な律令的祭祀が執り行われたことがわかりました。木簡は80点を数え、正税や出挙、稲刈りの人員など農作業の管理に関わるもの、稲の品種が書かれた種子札、蘇民将来札など多岐にわたっています。

遺跡周辺に日置郷や勝部郷を治めるような役所(官衙)が置かれていたと考えられます。

青谷横木遺跡は、古代の地方社会を解明していくうえで極めて重要な遺跡です。



図1 青谷横木遺跡の位置



出土した木簡と木製祭祀具

編集・発行 **鳥取県埋蔵文化財センター**
〒680-0151 鳥取県鳥取市国府町宮下12260
電話 0857-127-6771
FAX 0857-127-6712

ホームページ <https://www.pref.tottori.jp/malbun/>
Facebook <https://www.facebook.com/tottorinabun>
E-mail malbuncenter@pref.tottori.jp



唐 永泰公主墓壁画 女子群像
(写真提供: ユニフォンプレス)



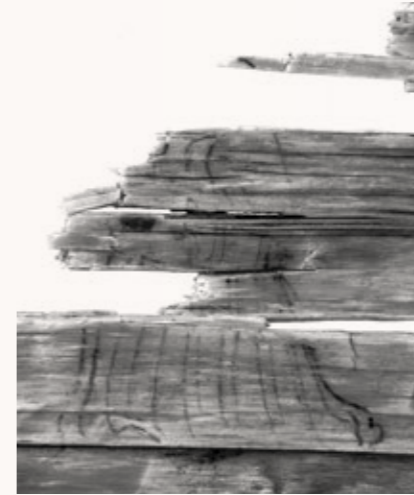
国宝高松塚古墳壁画 西壁女子群像
(写真提供: 明日香村教育委員会)



高句麗 水山里古墳壁画 西壁人物群像復元(行列図)
(写真提供: ユニフォンプレス)



人物4



人物5



人物6

板絵は5点の板片に割れており、長さ70.5cm、幅15.5cm前後に復元されます。厚さは6mmほどで、材質は杉です。墨で描かれ、彩色はありません。



「女子群像」板絵とは？

製作年代 高松塚古墳壁画と同じ飛鳥時代、7世紀末から8世紀初頭と考えられます。

用途 よく分かっていません。ただし、板の上端には径5mmほどの小さな穴が開けられています。紐などにより何かに掛けられていたと思われます。

構図 6名の女性が列をなし、左側へゆつくりと歩を進める姿が墨で描かれています。一番右端の人物6は他の人物よりも小さく描かれていることから、侍女と考えられます。このような行列図は朝鮮半島の高句麗でみられ、水山里古墳壁画(5世紀後半)では主人と婦人が従者を従え行列する姿が描かれています。

髪型 髪は鬘状に結び上げて、さらにその先を後ろでまとめられています(人物5・6)。「日本書紀」によると、682年(天武11年)に「今より以後、男女ともことごとく髪を結げなさい。」という結髪令が出されています。これは唐(中国)の流行を取り入れたもので、結髪が当時、最新のヘアスタイルであったことが分かります。

服装 上衣は筒袖風の袖で、丈が短く、襟もとがゆったりとしています(人物5)。これは高松塚古墳と異なり、唐の永泰公主墓壁画(8世紀初頭)に似ています。一方で、裳とよばれる長いスカート、縦じまの切り替え模様は高松塚古墳とそっくりです。裳の裾からはとがった沓先が見えます(人物3・4)。

持物 侍女とみられる人物6は髷子(髷払い)らしきものを持っています。髷子は高松古墳や永泰公主墓でもみられ、高松塚古墳ではそれ以外に権威を示す孫の手状の如意、貴人の顔を隠す翳(団扇)などを持つてたたずむ様子が描かれています。

以上の特徴から、青谷横木遺跡の板絵は、行列図という高句麗壁画の古い要素をもつ一方で、髪型や服飾は当時、中国や飛鳥の都で流行していた最新のスタイルでした。

「女子群像」板絵が語るもの

板絵は国内にとどまらず、広く古代東アジアにおける文化交流を考えるうえで重要な資料です。人物群像は唐や高句麗の墓室に描かれた画題で、板絵は葬送儀礼に関連するものである可能性があります。

7世紀後半は、朝鮮半島を巡り、東アジア全体が激動の時代でした。百済や高句麗の滅亡後は多くの遺民が日本へ渡ってきたことが知られています。このことから、渡来系の豪族、もしくは渡来文化にゆかりの深い有力者が青谷の地に存在し、板絵を描かせた可能性があります。

青谷平野には、かつて潟湖が存在し、弥生時代には青谷上寺地遺跡が港湾集落として繁栄を極めました。板絵の出土は、この地が日本海に面し、古くから対外交流が盛んな土地であったことと決して無関係ではないでしょう。

板絵の出土した場所

板絵は7世紀末から8世紀初頭につくられた古代山陰道と10世紀後半につくられた条里遺構のちょうど交点付近から出土しました。



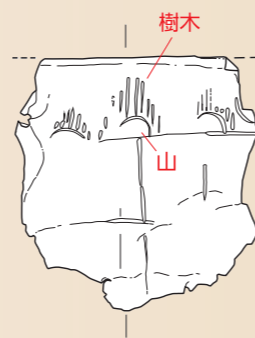
板絵が出土した調査区(南から撮影)

山岳文様のある銅板

年代は板絵と同じく7世紀末から8世紀初頭と考えられ、古代山陰道の盛土から出土しました。

銅板は仏像などを納める厨子等に飾られた押出仏(銅板に鑄型を押しあてて仏像を打ち出したもの)の破片である可能性があります。破片の大きさは長さ4.7cm、幅4.2cmで、厚さは5mmほどです。

表面には大陸から伝わった仏教美術のモチーフである山岳文様が打ち出され、山々と樹木が表現されています。



山岳文様のある銅板



東アジアの情勢

朝鮮半島では、百済が660年に滅亡し、日本は百済の支援要請を受け、唐・新羅と戦います(白村江の戦い・663年)。その後、高句麗も板絵が描かれる以前の668年には滅亡してしまい、新羅により朝鮮半島は統一されました。



7世紀後半の東アジア